

9月3日 円形脱毛症

小学校5年生の時。姉が私を見て「あんた、10円玉くらいのハゲができてるで」と言った。鏡で確かめると、なるほど、右の側頭部の刈り上げ部分に丸いハゲができていた。父がぼそっと「わしも子どもの頃ようできたわ。神経質な子どもはようできる。けど自然となくなるわ」

その日から野球帽が欠かせなくなった。耳が折れ曲がるぐらいに深くかぶり、室内に入っても外さなかった。父親から事情を話してもらい、授業中も帽子を被っていた。指で触るとツルツルで毛穴さえ感じない。しかも日に日に大きくなっていく。今でいう500円玉くらいの大きさまで無毛地帯が広がって、帽子でも隠せないほどになった。父は10円ハゲくらい気にするなと言ったが、髪を伸ばして隠すことにした。しばらく隠しているうちに、自然とハゲはなくなっていた。

この仕事についてからも何度か円形脱毛症に見舞われたが、その都度知らぬ間になくなっていった。振り返ると、確かに神経をすり減らす度にこの病に悩まされていたように思う。

50を超えた頃からそれもなくなった。世にいう“鈍感力”を習得したからか。それとも何事にも興味を持たなくなって、枯れてきたからか。

